

平成24年 第11回

教育委員会定例会会議録

平成24年11月7日

中央区教育委員会

平成24年第11回教育委員会定例会会議録

開会日時 平成24年11月7日(水) 午後2時00分

場 所 中央区役所6階会議室

出席委員 中央区教育委員会委員長 永嶋久子  
委 員 竹田圭吾  
委 員 松川昭義  
委 員 鈴木ゆか  
教育長 齊藤 進

説明のために出席した事務局職員

次 長 新治 満  
庶務課長 有賀重光  
副 参 事 森下康浩  
学務課長 林 秀哉  
指導室長 増田好範  
統括指導主事 山崎 隆  
統括指導主事 伊藤 聡  
図書文化財課長 粕谷昌彦

説明のために出席した区長部局職員

文化・生涯学習課長 鈴木 浩

書 記 中央区教育委員会事務局

庶務係長 眞下一弘  
庶務係員 島田由美子

開 議 午後2時00分永嶋委員長開会宣言

会議規則第30条による署名委員

委員長 永嶋久子  
委 員 竹田圭吾

日程第1 報告事項

各課からの報告について

- 委員長 ただいまから、平成24年第11回教育委員会定例会を開会いたします。  
初めに、本日の会議録の署名委員を指名いたします。本日は竹田委員に  
願います。  
また、本日は案件の関係で、区民部文化・生涯学習課長に出席をお願い  
しております。  
それでは、本日の日程に入ります。日程第1、報告事項のうちの資料1及  
び口頭報告案件について報告願います。
- 次長 「平成24年第三回区議会定例会(9月議会)における一般質問」について資  
料1により報告
- 庶務課長 「決算特別委員会での質疑」について口頭により報告
- 委員長 ただいまの報告について、ご質問等ございましたらお伺いをいたします。  
(「なし」の声あり)
- 委員長 それでは引き続き、資料2から資料4について報告願います。
- 学務課長 「区立小学校特認校制度の申込み状況」について資料2により報告  
「区立中学校自由選択制の申込み状況」について資料3により報告  
「区立幼稚園児の応募状況」について資料4により報告
- 委員長 ただいまの報告について、ご質問等ございましたらお伺いいたします。
- 松川委員 明石幼稚園の場合は、定員が40人のところ48人応募があったので、定  
員を50人に変更したとのこと。これは良いことですね。日本橋幼稚  
園は、定員35人に対し39人応募があって抽選を行ったとのことですが、  
全体人数としての3人とか4人の差なのでは、その差というのはスペ  
ースの問題なのでしょうか。
- 学務課長 今のご指摘いただきました件でございますが、スペースの関係が大きく影  
響しております。日本橋幼稚園でございますが、4歳児及び5歳児それぞれ、  
1クラスしか施設的な関係で設けることができません。4歳児及び5歳児の  
定員は35名が上限でございますので、3歳児の段階で50名までは受ける  
ことができるのですが、50名にしてしまうと、4歳児及び5歳児でそ  
れぞれ2クラス設けていかなければならなくなるというところから、3歳児  
は2クラス設けているところでございますが、35人の定員とさせていただ  
いているところでございます。
- それから明石幼稚園につきましては、改築をさせていただき施設面での余  
裕がございます。現時点において4歳児及び5歳児は、それぞれ1クラスで  
ございますけれども、来年度50名に定員を拡大し、今後応募が50名を超  
えることになった場合には、クラス数を増やし、さらに定員を拡大して、受  
け入れをさせていただく方向で進めていきたいと思っております。
- 委員長 ほかにご質問等ございませんか。

(「なし」の声あり)

- 委員長  
指導室長  
委員長  
竹田委員  
指導室長  
竹田委員  
指導室長  
竹田委員  
指導室長
- それでは引き続きまして、資料5及び資料6について報告願います。
- 「平成24年度『学習力サポートテスト』の結果に基づく授業改善に向けた取組」について資料5により報告
- 「平成24年度区立小・中学校児童・生徒体力調査の結果」について資料6により報告
- ただいまの報告について、ご質問等ございましたらお伺いします。
- 学習力サポートテストの結果についてですが、まず、調査結果の通知の中に、個人別学習診断カルテですか、本人及び保護者に通知すると書いてあるのですが、これは具体的にはどういう形で通知をしていて、また、その活用の仕方というか、全員は無理だと思えますけれども、得点が低い傾向が見られた児童・生徒に、何か通知するときにアドバイスをしたりとか、あるいは事後的なフォローみたいなことをしているのでしょうか。
- 診断カルテの配布を7月の夏休み前に行っております。その時期に行うのは、個人面談等で、子どもと保護者の方にも、どの辺が苦手なのかということや夏休み前に伝えることが目的の1つです。夏休みに、小学校では、サマースクールという形で補習を行っています。中学校においても、全体通して夏期補習を行っておりますので、そこで、苦手なところについては克服をしてもらうために保護者の方にも情報提供し、子どもにもその部分について、「こういうことを学習するといいよ。」ということや伝え、小学校につきましては、学習支援テキストとして、プリント状にしたものを各学校で活用して、苦手な部分があれば、家庭での学習を促したり、サマースクールのときにも活用して、苦手なところを理解させて身に付くような取り組みをさせていただいております。
- 今の通知というのは、面談のときにこうでしたと見せるだけということですか。何か紙にしたものを渡すのではなくて。
- 結果等のデータを印刷した紙を一人一人に渡しております。内容は、全教科の結果とどういう部分ができなかったのか、こんな学習をすればいいよというようなヒントや昨年度はどのような様子だったというような、成績の経年比較のグラフも載せたものとなっております。それを面談などでも使ってお話をしていくという形をとらせていただいております。
- 結果の分析のところですが、正答率だけ見ると中1の数学を除き、24年度は良くなった科目がかなり多いように思うのですが、これは23年度の結果を踏まえて、何をしたら良くなったと認識しているのでしょうか。
- 問題につきましては、各年ほぼ同レベルのものを用意するという事で準

備をさせていただいております。そうした中で、数値が少しずつ上向いているという要因の認識としましては、やはり子どもたちが苦手な部分について、その問題がどうであったかということについて、教員にも情報を伝えて、各学校でも検討していただいておりますので、先ほど授業改善プランということでお示しもさせていただいておりますけれども、その子どもの苦手な部分をどう補いをつけるかということと、あとは授業の中でそれをどううまく理解させるかという取組を、学校、教員もしておりますので、そういう成果が少しずつ出ているものと捉えております。

竹田委員           あまりにも抽象的な答えで、一般論としては分かるのですが、例えば具体的に何か一つだけでも特定の教科とかで、これをやったから多分上向いたのだろうかと、指導室として感じていることは何でしょうか。

指導室長           一つの例で申し上げますと、小学校の4年生の算数のところをご覧くださいと思います。資料の4ページでございます。右側が23年度でございますので、数と計算、それから量と測定、図形、数量関係、いずれもこれは得点率のところで見えてまいりますと上向いておりますし、正答率についても上向いております。

これについては、算数においては少人数指導ということで、各学校に、都の加配教諭のほかに区独自で採用した講師を入れて行っております。各学校かなり少人数指導の部分については重視して進めております。それとあわせて繰り返しの学習です。今回、学習支援テキストなども出してございますけれども、繰り返しの学習をする中で、その定着を図っていくことに努力をしておりますので、その成果が出てきているのではないかと思います。

竹田委員           もう一点。先ほどの書くことに課題があるというご指摘は理解したのですが、小学校4年の国語で、先ほどご説明いただいた、書くことのところ、標準偏差は23年度もかなり大きい数字ではないですか。それが逆に24年度にあまり変わっていないということは、去年もそれなりにこの書くことというのは課題として認識していらっしやったと思うのですが、数字だけから読むと、去年この数値を踏まえて行った授業改善プランが、あまり効果を発揮していないというようにも、データだけで見えてしまうと思えるのです。その受け止めと、今年は具体的にどのような改善をされるとお考えなのでしょうか。

指導室長           書くことについては、国語もそうですし、ほかの教科でも、書くことについては課題が出てきております。昨年度も同じ点について課題が出てきているわけですが、このことについては学校においても意識をして、特にノート指導、ノートをどのように取り扱っていくかということが非常に重要ではないかと思っております。

各学校にもそういったことについてはお伝えをしているところで、実際に授業の時間に書くということになると、ノートをいつも用意させてあるので、ノートへの記述についての指導をいかに充実させるかというところに取り組んでいるところでございますが、なかなか結果が数値として、まだ出てきておりません。これは継続してやっていくことが必要と思いますし、それから書くことについて必要感を持たせることも重要と思っております。

書かされるのではなくて、書く必要性をやっぱり子どもたち自身が認識をしてもらい、書くことによっていいことがあるということ、子どもたちが体験する。書くことによって、例えばお話が上手にできるようになるとか、それから考えをまとめることができるとか、そういったところを子ども自身が感じていくことが重要と思っております。教員には、そういうことも踏まえて授業の工夫をしていただくように、引き続き働きかけをしていきたいと思っております。

竹田委員 わかりました。ありがとうございました。

松川委員 体力テストで、中央区のこの種目の結果が平均を下回っているなどと指摘されるものですから、投力について思うのは、我々の世代というのは、遊びに行くときキャッチボールをしたりとか、屋外でボール投げをしていたのですが、今公園では一部を除きしてはいけないというのですね。道路では遊んでいないし、まず投げっこをしている子どもを見ないですね。最近、公園でやっている子はみんなサッカーですよ。まちを歩いているときに見ていても、ボール投げしている子はいないですね。まずサッカーだから。そんなところで感覚的にうなずけるのですが、これからその向上に向けて、どのように研究されていかれるのでしょうか。

指導室長 委員ご指摘のとおり、やはり子どもたちの体力については、その生活上での経験から生じてくるものが大きいと思います。やはり、中央区の子どもたちは、広いところでボールを思い切り投げるといった経験を数多くできる環境下にはございませんので、それが如実に結果に出てきていると捉えております。今後、どう工夫すればいいのか、それが学校の課題でもあり、私どもの課題でもあると思います。バランスのいい体力づくりというのは非常に大切ですが、工夫をして、コツをつかむということも必要と思っております。投げるときのタイミング等といったことも学習することを含めて、ぜひ検討していきたいと思っております。

委員長 ほかにご質問等ございませんか。

(「なし」の声あり)

委員長 では引き続きまして、資料7についてご報告をお願いします。

図書文化財課長 「労働スクエア東京跡地複合施設『本の森ちゅうおう』(仮称)基本設計の概

要」について資料7により報告

委員長 ただいまの報告について、ご質問等ございましたらお伺いいたします。よろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

委員長 それでは引き続きまして、資料8及び資料9についてご報告願います。

文化・生涯学習課 「平成25年中央区成人の日記念式典『新成人のつどい』の実施」について資料8により報告

「第33回『中央区子どもフェスティバル』の実施結果」について資料9により報告

委員長 ただいまの報告について、ご質問等ございましたらお伺いをいたします。よろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

それでは引き続き、資料10について、順次報告願います。

指導室長、図書文化財課長、学務課長 「意見・要望」について資料10により報告

委員長 ありがとうございます。ただいまの報告について、ご質問等ございましたらお伺いします。

竹田委員 この部活動についての件ですが、このようなものまで教育委員会で対応しないといけないのですかね。学校の判断という気がするのですけど。

指導室長 委員ご指摘のとおり、この件は学校で対応していただくものと考えております。今回のケースについては、顧問の教員が生徒に対する励ましといたしますか、「きちんと練習しなければ出られないよ」ということで声をかけたつもりだったようですけれども、文化祭当日が迫ってくる中で、子どももうまくそれを受け止めることができず、どうしようということになったものと思っております。結論としては、学校で子どもともよく話し合いを行うなど、収まりとして学校できちんと対応したものと思っております。

教育長 区の制度といたしましては、「区長への手紙」で来たものについては、全て回答を区側から行うということになっておりまして、何らかの回答は必ずするという仕組みとなっております。

竹田委員 回答するなど言っているのではなくて、「学校に問い合わせてください」でいいのではないかという意味です。

教育長 そういう回答方法もあるかとは思いますが、全体としては丁寧に対応するという区側の広報・広聴体制に沿って、何らかのご納得いただける回答を基本的に行うこととしております。内容については、委員のおっしゃる部分と同様、私どももそういう認識を持っております。

松川委員 子どもではないのですから、見たものを何でもあれが欲しい、これが欲しいというような傾向が少し強いと思います。今言われたように、それは練習

していなければ出さないとかは当たり前のことで、全てをやったから参加できるとか、欲しいから手に入れたいという傾向が、少し強いような気がします。こういうことには、毅然とした態度が必要ではないでしょうか、今の答弁によれば、区のシステムにおいては難しいかもしれませんが。

そういうことでいろいろ言ってくる保護者もいるのでしょうけれど、もう少し常識的な考えでいいと思います。部活だって、練習していなければ出せませんよね。僕もまちで剣道を教えていますが、試合が近いから出させてくださいと言われても、稽古に来ない者は出すことができません。あるいは団体戦のメンバー5人制で、5人のレベルに行かない者は出さない。一生懸命来ている、かわいそうだけれども実力がなければ出せない。勉強だってそうだと思います。うちの子が何かしているから何でだって言われても、点数とかが出てくれば仕方ない問題もあるでしょう。

委員長 けれども、その一般で言う社会常識がわかっていない人が聞いてくるわけだから、それに対して言っても通じないと思います。

松川委員 この間、委員長から話のあったハトに餌をあげている人のケースと同様に、少しそういう意味では学校もやり合ったほうがいいのではないのでしょうか。

竹田委員 うまくおさまったからよかったですし、対応として特にどうということはないのですが、結局のところ教育委員会に「区長への手紙」を出して、教育委員会にも対応いただけると、本来は部活動ですから、学校及び顧問の先生の裁量というか、範囲のところ簡単に換えられるとか、動かせるという認識を保護者に与えてしまうのが、少し僕は心配なのです。

今回の対応が全く間違っているというわけではなくて、これ以上はもう教育委員会としては対応できませんというところを、ある程度ニュアンスとして出していったほうがいいのではないかという意味です。

教育長 ご指摘は、ごもっともだと思います。全体の説明が少し足りないところがありました。

この件の保護者側の主張に対して、これはお答えしなければいけないというところは、対外的な試合に出るとかいうことであれば、当然、私どももこれは学校とご相談くださいというお話で進んでいくことだと思ったのですが、文化祭という学校行事の中であって、例えば運動会でしたら全員が参加するまたは文化祭だったら全員が参加するという前提の下にご指摘を受け、基本的には全員が出る行事の中でのことでしたので、丁寧な対応をしたところでございます。

松川委員 文化祭が学校行事だからということですが、聞くところによると、学芸会でうちの子に主役をやらせたいから、主役が4人も5人も同じ役を分けてやるというようなことになってしまうのではないのでしょうか。 その

子の技量とかはあると思います。だから、学校行事で公平だから、親がうるさいからやりたい5人の子に主役をやらせて、みんなが順繰りにやるというのはどうかと感じます。僕は、公平と公正というのは違うと思っています。だから、そこが混在していて、学校教育は公平にしなければいけないからということで、平等にやったからってそれが正しいものではないと思います。

鈴木委員

結局こういうことが、顧問の先生をますますやりづらくしているというか、先生はこういう指摘が教育委員会から来ると、驚いてしまうと思うのです。

それで、一生懸命指導しているけれど、そういう形で親の訴えがあると、先生方がなるべくそういうことは言わないでおこうという気持ちになってしまうと思いますし、今日のこの件について、委員の方がこれだけのことを質問されています。不思議なのは先生の声が何も聞こえてきていないというか、私は先生方が多忙だ、多忙感がある、大変だと、それだけわかっているけど、先生方が実際どういうことを今、本音で思っているかということは一度も聞いたことがありません。何かの資料で出ると思っていましたが、先生方の現場の声というのが聞けない感じがするのです。

昔より子どもが少なくなっているのに、少人数になってこれだけプレディですとか、多種多様な施策をいろいろつくって、そして子どもたちに何かしてあげたいというのはわかるのですけれども、何かそこにある子どもの人数が減っても先生方が忙しいということの矛盾について、先生方の現場の声というのが聞けません。

いつも、これに対してここは無理だとか、教師としてここまでやっているけれども、やはりそこまでは手が回らないとか、そういう多くの先生方の意見を取り入れてから、新しいものをつくり出すならいいのですが、先にこういうものをつくってしまえば、先生方は言えなくなって、やっていかなければいけないことになっているのではないのでしょうか。

だから、こういう「区長の手紙」もそうですし、少しスタイルを変えて、たとえこういう苦情が来たとしても、先生方がある程度「また来ましたか」というぐらいに、大丈夫だからという校長先生のフォローとかもないと、もう先生方は行き場がないというか、これじゃ多忙感でかわいそうだ、大変だと言っているけれど、結局その手だては何もできていないように思いました。

あと、先程の体力テストの件、例えばソフトボールの投げる場所がないからというよりも、ソフトボールを投げていない子でもすごくボール投げが上手な子もいるのです。持久力といってもほんとうはあるけど根性がなくて、ただ走らないとか、嫌だ、嫌だと言っている子もいるのです。

だから、ボールを投げられないというのは、背筋力とかがないからそこを鍛えることをすればいいのであって、ボール投げをする場所がなくても、ほ

かのところを鍛えれば体力がついてきますし、持久力がないとの結果にしても、本当はあるのに精神的に嫌だという感じで走っていないだけで、やればできるということもあると思います。

一部の種目の結果数値だけで判断するのではなくて、それを例えば持久力がないからこうしよう、投げる力がないからということをやり過ぎないで、体力全体の向上をめざすと考えればいいのではないのでしょうか。

広場がなくてもソフトボール投げはうまくなるという方法もあると思いますので、何かうまく申し上げられませんがそう思いました。

委員長 ほかに質問よろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

委員長 ご質問等ないようですので、文化・生涯学習課長さん退席していただいて結構です。ありがとうございました。

(文化・生涯学習課長退席)

委員長 これで本日の日程は終了いたしますが、委員の方からのご意見等ございましたらお伺いします。よろしいですか。

ご意見等ないようですので、本日の委員会は閉会いたします。

午後3時34分 永嶋委員長閉会宣言

署名委員